

はじめに

「アデリーペンギンのフンは何色でしょう。」と南極から問いかけ、生徒がそれに応じる、そんな授業が今年の1月に本県の高等学校で行われました。第51次南極観測隊に同行した教諭が昭和基地から衛星回線を介して、「実は、ピンク色です。エサにしているオキアミの色のせいなんです。」と語り、南極のコケやオーロラなどの様々な素材を教材にして、教諭はスクリーンいっぱいメッセージを送り続けます。教科書などでは得られない迫力・臨場感に、生徒たちは興味・関心を大いに喚起され、熱いまなざしで映像に見入っていました。

南極で微生物等を観察するという学生時代からもち続けた夢をかなえ、「チャレンジが大切」と日ごろから生徒に説いている自らの言葉どおりに行動した教諭の熱い思いは、映像を介しても生徒たちに伝わり、鮮やかな映像とともに生徒たちの心を強くうったことでしょう。

子どもたちの熱いまなざしや、興味・関心を引き出すには、指導者自身が学び続ける強い意志と新しいことに挑戦していく姿勢を常にもち、子どもたちに語り続けることが大切ではないかと思えます。このことが、本県の教育課題の一つである「学ぶ意欲の向上」につながる一つの方途ではないかと考えます。

さて、このたび平成21年度奈良県立教育研究所の研究指導主事等のグループ研究を「研究紀要」に、奈良県立教育研究所長期研修員及び奈良県教育委員会指定研究員によるプロジェクト研究及び個人研究を「研究集録」としてまとめました。

これらの研究の成果は、平成22年2月に行われた“教育セミナー2009”及び長期研修員研究報告会において、既に一部が発表されています。その際、参加された先生方から多くの貴重な御感想をいただき、それらも踏まえて編集を行いました。

なお、ここに挙げたものは、紙幅の関係上、研究内容を要約したものとなっています。より詳細な内容については、当研究所のホームページ及び当研究所図書室に保管している「研究報告書」を御覧いただきたいと思います。これらの研究成果を日々の教育活動に御活用いただくとともに、より一層の研究の進展のために御意見をいただければ幸いです。

末筆となりましたが、長期研修員、指定研究員の皆様はもとより、ここに収められた研究を進めるにあたり多大な御協力と御支援を賜りました各関係校（園）の諸先生方に心よりお礼申し上げます。

平成22年3月

奈良県立教育研究所
所 長 山 本 吉 延